

腎シリーズ！

～検査で見るもの・慢性腎臓病～

腎シリーズでは腎臓の働きや働きが悪くなる原因についてご紹介してきました。

腎臓の働きには、体に必要なものを体内に再吸収し、不要なものは尿として排泄し血液をきれいに保つ働きなどがあります。腎臓の働きが悪くなる原因には、腎臓そのものが原因の病気もあれば尿結石や膀胱炎、メタボリックシンドロームなどがあります。病気を治療せず放置すると腎臓そのものの働きができなくなります。

大切な腎臓の働きを知るには検査を受けることでわかります。今回は、腎臓の検査について各検査値で何を見ているのかをお伝えするとともに、日本人に増えてきている慢性腎臓病についてもご紹介いたします。

検査で一体何を見ているの？

腎臓の働きを知るにはたくさんの検査項目がありますが、下記の表は代表的な検査です。

検査方法	検査項目	何を見ているか
血液検査	クレアチニン	筋肉中の物質から出来る老廃物です。腎臓からろ過され、尿中に排泄されるものです。腎機能が低下すると、尿中に排泄されずに血液に蓄積し値が高くなります。
	尿素窒素	食事や体たんぱく質の燃えカスです。主に尿中に排泄されます。腎機能が低下すると、尿中に排泄されずに血液の中で値が高くなります。
	尿酸	老廃物の一種です。食品に含まれるプリン体が身体の中で尿酸という形に変わります(最終代謝物質です)。腎臓のろ過する機能が低下すると尿酸が血液中に溜まります。
クレアチニン値と年齢、性別を計算して値を出します。	eGFR	腎臓がどのくらい働いているかをみる値です。腎臓は糸球体というところで体にいるものといらないものを特殊なフィルターで選別し、ろ過しています。このろ過する働きを示しています。例えば、eGFRが90ならば90%働いているという意味をもっています。ただし、筋肉の病気がある人や、極端に痩せている人又は太っている人、血糖値に異常のある場合などは指標にならない場合もあります。
尿検査	尿たんぱく	たんぱく質は体に必要なものなので、尿としては出ないようにになっています。尿にたんぱくが出る場合、糸球体の血管が傷んで体にいるものが出てしまっていることが考えられます。激しい運動の直後や熱が出たときなど生理的に出る場合もあります。
	尿潜血	赤血球は尿としては出ないようにになっています。この赤血球がたくさん出ることによって尿が赤く見え「血が混じる」ことが起きます。腎臓から尿が出るまでの間のどこかで出血していたら尿潜血が+（陽性）になります。
	尿糖	糖は体に必要なものなので、再吸収し血液中に戻り、尿に出ないようにになっています。しかし、たくさんの糖があると1分間に再吸収する力にも限りがあるため、再吸収できない分は尿として出てしまいます。血糖値が正常でも、糖の再吸収する働きが体質によって悪い場合があります。その際にも糖が尿に出ることがあります。